

# 議論にあたっての業界認識

～ GMOクリック証券・SBI証券・セントラル短資FX ～

1. 店頭FX業者は、これまで金融先物取引業協会を通じ当局とも密接に連携しつつ、このあとご説明するとおり、リスクの顕現化を防ぐための相当高度な管理手法を整備してきている。
2. 市場の取引規模と業者が負うリスクの規模は同義ではない。後者は、取引をネットアウトし、圧縮した後のポジション等と相関する。市場の拡大は、取引ルールの整備、リスク管理と顧客サービス改善に向けた努力の結果、利便性が高まり、投資家に選好されたことによる面も大きい。
3. 多様な通貨を機動的かつ低コストで投資できる機会や、為替リスクをヘッジする手段としてのFX取引の効用は、広く認知されている。
4. 店頭FX取引の社会的・経済的効果として、市場の流動性を増し、東京国際金融市場の発展に寄与している。
5. また、経済の実態を反映しない形で相場が一方的に振れるのに歯止めを掛けることで、市場を安定させる機能も果たしている。
6. FMI原則やシステミックリスクとどこまで関連付けて店頭FX業者の決済リスクを評価するのが適切か、また他の業態、他の金融商品等に対する規制とのバランスも十分踏まえたご議論をお願いしたい。